

2013-B					
拠出金・基金の名称		国際農業研究協議グループ拠出金／アフリカ稲センター(Africa Rice)			
種別		イヤーマーク ノン・イヤーマーク			
【拠出先の国際機関名】国際農業研究協議グループ(CGIAR)/アフリカ稲センター(Africa Rice)					
【所管官庁担当局課・室名】農林水産省大臣官房国際部国際協力課					
【当該任意拠出金の目的・用途等】					
<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ内陸低湿地における持続的稲作技術実証・普及事業 西アフリカの内陸低湿地を対象とし、農民参加型の持続可能な稲作生産体系技術を実証・普及する事業を実施。 ・アフリカ食料安全保障情報整備支援事業 CARD支援対象国を対象とし、コメを中心とする農業統計を改善するための事業を実施。 					
【最近3年間の我が国支払額及びODA率】					
単位	邦貨 (千円)	外貨1 (千米ドル)	外貨2 (千)	レート	ODA率(%)
平成25年度	66,180	807	-	1米ドル = 82円	100
平成24年度	74,029	914	-	1米ドル = 81円	100
平成23年度	56,535	635	-	1米ドル = 89円	100
【当該任意拠出金等の意義、成果等に関する我が国としての評価】					
<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ内陸低湿地における持続的稲作技術実証・普及事業 西アフリカの内陸低湿地を対象として、農民参加型の持続可能な稲作生産体系技術の実証・普及を通じて、中長期的生産性向上を支援するものである。平成25年度には、西アフリカの2カ国において、引き続き技術の実証を継続。 ・アフリカ食料安全保障情報整備支援事業 CARD支援対象国のコメを中心とする農業統計整備を支援し、CARDの取組の効果を測る体制を確立するものである。平成25年度には引き続きパイロット9ヶ国(コメの生産量上位の国)から新たに3ヶ国で、改善した調査手法によるパイロット調査を実施。1年目のパイロット調査が着実に進められており、我が国として高く評価できる。 <p>なお、アフリカ稲センターには、邦人研修者が理事として参画するとともに、我が国が理事国として関与する国際農業研究機関協議グループ(CGIAR)の1機関として、合理化、機能強化のための改革を進めている。</p>					